

2021-2022

第5回例会

会 報

No. 1153

豊橋東ロータリークラブ

事務局：豊橋市花田町石塚 42 豊橋商工会議所内 TEL 0532-56-8566 FAX 0532-39-7520

会長：齊藤伸明、副会長：平野正博、幹事：水谷朱美、出席・会報委員長：坂牧博美

令和3年8月22日(日) ※8月18日(水)より例会変更

例会場：豊橋市総合体育館

担当：社会奉仕／青少年奉仕

ゲスト なし

出席報告	会員総数	計算会員	出席免除者数	欠席	出席率	7月28日修正出席率	ビジター
	52名	46名	6名	16名	65.96%	81.25%	0名

地区補助金事業 小学生バレーボール教室

8月22日(日)、愛知県豊橋市の豊橋総合体育館メインアリーナにて豊橋東ロータリークラブ主催の地区補助金事業を行いました。コロナ感染予防対策を徹底の上、東三河地域の小学生を中心に参加者の募集をし、多くのみなさんのご協力のもと「地域をつなぐ未来の宝 見つけよう世界のスーパースター プロ選手が教える小学生バレーボール教室」を開催いたしました。

今回の補助金事業では、地域をつなぐ未来の宝として愛知県東三河地域在住の子供たちを中心として募集いたしました。参加した子供達が、普段ではなかなか出会えないプロのバレーボール選手とともにバレーボール教室に参加し、一日を通して活動することで、子供たちに将来へ向かって大きな夢を抱いてもらえる機会を提供することを主な目的としました。特に昨今はコロナ下の影響も多くあり、新しい経験や体験をしていく機会を得るのがなかなか難しくなっています。普段とは違う環境の中で、子供同士のコミュニケーション、まわりの大人、そして事業に参加するインターアクトクラブの高校生とも触れ合いながらそれぞれが関係を深めることで人間形成の育成に寄与できること、加えてバレーボールを通して参加者がそれぞれの立場で活動する中で様々な人と出会い、今後の成長につながる経験を積むこともあわせて目的としていました。

東三河地域在住の小学生6年生を中心に約120名の小学生の皆さんに参加をしていただきました。愛知県で活躍中のVリーグの選手を中心としたプロ選手7名にお越しいただきました。プロの選手たちの指導の下、活気あるバレーボール教室となりました。開催にあたっては、桜丘学園孫便りインターアクトクラブの高校生たちも加わり、バレーボール関係者の方々、保護者の皆様、地域の多くの皆様にご協力いただきました。

開会式の後、午前10時より全体練習よりスタートした教室で、参加者たちは、バレーボールの経験者の子供達、バレーボールをするのが初めてで経験のない子供達も一緒になり、プロ選手の皆さんからの指示に従い、それぞれのレベルに合わせ練習をしました。和気あいあいとした中にも厳しさもある指導でしたが、参加者全員が真剣な眼差しで話を聞き、ボールを追いかけていました。やはり日頃ではなかなか直接教えてもらう機会の少ないプロの選手からの指導とあって、子供たちが練習に取り組む気持ちもかなり伝わってきました。この教室の意義を強く感じられた練習風景だったと思います。

その後小学生チーム対選手、スタッフ、大学生の混合チームによる試合形式の対戦もしました。その日初めて出会った子供同士もいましたが、コミュニケーションをとる楽しさや楽しさを感じてもらいつつゲームをし、試合間の選手からのアドバイスにも熱が入っていました。そして最後にはプロチームとロータリアンチームによるドリームマッチも行われ、会場が一つになって盛り上がりました。参加者全員が目的に向かって気持ちを一つにできたことで、この事業の象徴となる時間ともなりました。

最後に選手からあいさつの中で、子供たちに対して、まわりの人たちへの感謝を忘れないでください。という一言がありました。その言葉を聞き、私たち自身もプロの選手はじめ、本当に多くの人々が、この事業に携わっていただいたことに対して感謝の気持ちで一杯となりました。

コロナ下でなかなかこういったイベントの機会に恵まれない子供たちにとっては、貴重な時間となる教室であったと感じました。地域をつなぐ未来の宝である子供達が、プロの選手たちと間近で触れ合い、さらに地域の皆さんとも一体となりふれあう中で、この日経験したことが、今後の成長につながり、将来に大きな夢を抱いてもらえる一歩となる意義ある補助金事業となりました。

子供達、地域の皆さんと一緒に、こういった補助金事業を実施できることは本当に喜びであると実感いたしました。コロナ下の状況下におきましては、イベントをするのに、今までの2倍、3倍それ以上の気遣いが必要となりました。無事に行うことができたのも開催に至るまでの打合せ、準備、そして日々変化する状況への対応力であったのは間違いありません。今この時だからこそ、ロータリアンの思い、力をあわせていかなければ、本当の意味で事業の実施も叶いませんでした。この事業で感じた思い、私たちが得たものを忘れることなく次へ次へとまた進んでいければと思います。



原稿：中澤 理 さん